

R7全体研究のまとめ

I 研究主題

児童生徒の学びの充実を実現する授業づくり

～すべての児童生徒が「分かる！」と感じる授業を目指して～

II 研究設定理由

本校では、これまでの研究で児童生徒の学びが充実するような授業を目指し、「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業実践に取り組んできた。また、学習指導要領を踏まえた学習評価の充実に向けて取り組み、指導と評価の一体化を目指してきた。具体的には、「授業づくりシート」の活用と「観点別学習状況の評価」に取り組む、PDCA サイクルにより授業改善を行うことで、本校の学校教育目標の達成に向け、児童生徒の目指す姿を設定し有効な手立てを工夫するようになってきた。

本校の授業づくりは、このように教師が思いや願いをもって行ってきたが、児童生徒自身が目標をもち、それを達成したことを実感しながら学ぶことが必要だと考えた。そこで、児童生徒の目線に立ち、全ての児童生徒が「分かる」と感じる授業づくりに取り組むことにした。

本研究を進めるにあたり、多様な実態の児童生徒がいる中で、全員が「分かる」と感じる授業にするためには、実践での児童生徒の姿から、授業づくりに何が必要かを明らかにすることが大切である。また、小学部から高等部までの学びをつなげることは必須であり、本校の授業づくりについて全校で共有していかなければならないと考えている。

以上のことから、本研究では、全ての児童生徒が「分かる」と感じ授業について実践し、授業改善を重ねながら、本校が目指している「児童生徒の学びの充実を実現する授業づくり」がさらに充実するように取り組んでいく。

III 研究の目標

- 1 全ての児童生徒が「分かる！」と感じることができる授業づくりの考え方や授業づくりの工夫について明らかにする。
- 2 「分かる！」と感じる授業づくりの考え方が定着し、授業の計画、実践、評価、改善に生かすようにする。

IV 研究の方法

- 1 全体研究会、全校授業研究会において**共通理解**を図る。
- 2 学部研究会において、**実践の改善**をする。
- 3 専門性の向上により、**共通理解**を深める。

V 研究の計画

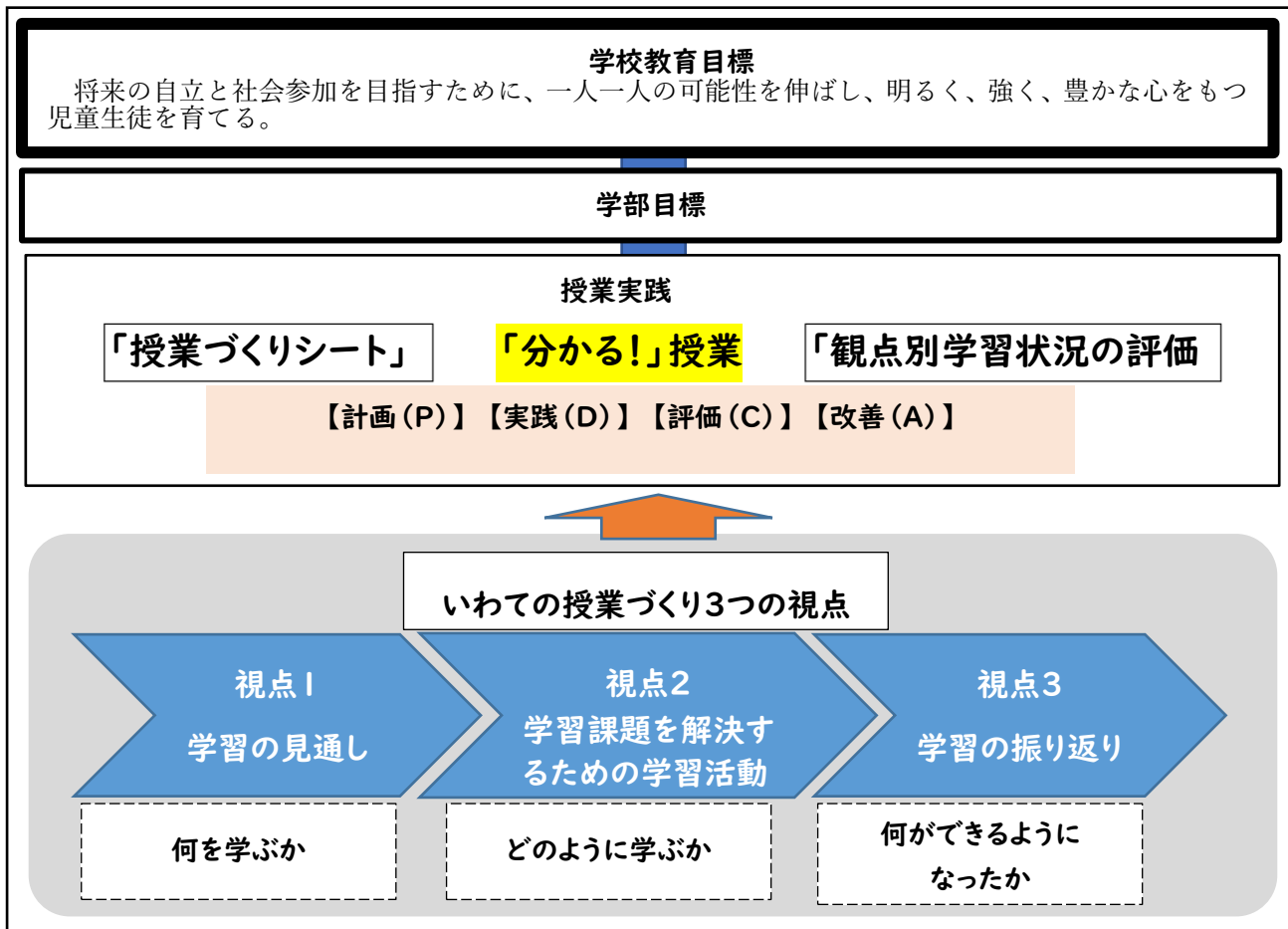
本研究は、3年次研究とする。研究の計画は、【表1】に示す。

【表1】研究計画

1年次 (R6)	2年次 (R7)	3年次 (R8)
「分かる！」と感じる授業を 実践から、探る	「分かる！」と感じる授業を 学部で共有し、全校に発信	「分かる」と感じる授業を 全校で共有し、授業改善
○各学部の課題に合わせて学部研究会を中心に実施	○学部研究会の取組を継続 ○各学部研究で取り組んだことを全校で共有	○全校で共有したことを基に各学部で実践 ○授業改善で授業の質の向上

VI 研究の構想

本研究の構想は【図1】のとおりである。



【図1】研究の構想

VII 研究実践

1 2年次（R7年度）の実践

(1) 学部研究について

各学部のまとめのとおり

(2) 全体研究授業について

ア 全体授業研究会（中学部 国語・Aグループ）

①協議の柱：様々な実態の生徒全員が気持ちを読み取ることができるためのポイント

②授業の「良い点」「改善点」と「気持ちの読み取りを生活につなげること」について話し合った。

③授業の中で「感情」や「気持ち」を考える経験を繰り返し、学校生活の中では気持ちを表現する言葉や表現方法を言葉での意味付けをしながら伝えて行くことで実際の生活にも繋がる。担当者間（T-T）による活動への考え方や、支援方法の検討、そしてそれらについての共通理解を行い、実態把握と児童生徒の個別の目標を基に授業づくりをすることが大切である。（助言：副校長）

イ 小学部授業研究会（体育科・低学年）

①協議の柱：児童が達成感を感じる場の設定について

②授業の「良い点」「改善点」と「実態差のある体育の学習の支援方法」について話し合った。

③特別支援学校の体育の授業は、個人に配慮したものでなければならない。児童の日々の様子や実態を教師間で共通理解し、単元中も改善を重ねることが大切である。何が分かったら（できたら）よいのか（ルール、自分の体の動かし方、周りの様子を見ながら、自分がどう動けばよいのか、新しいこと）を明らかにして授業をする必要がある。（助言：副校長）

ウ 高等部授業研究会（作業学習・手芸班）

①協議の柱：生徒が自分で判断しながら作業できる環境整備について

②授業の「良い点」「改善点」と「協議の柱以外の意見」について話し合った。

③作業学習では、生徒が質問・報告・相談の大切さを理解することや、適切なやり方を確実に身に付けることができるように段階的に取り組み、習慣化し、行動する姿がみられている。生徒一人一人の卒業後の職業生活に必要な力や態度を身に付けるためには、根気強く指導を重ねることが大切である。そのために一層の指導力の向上に努めてほしい。（助言：副校長）

(3) 2年次の研究のまとめ

ア 成果

- ①学部研究会の取組により、児童生徒が「わかった！できた！」と感じる授業は、児童生徒個々に必要な力を身に付けるために必要であることが明らかになった。このような授業づくりを目指し、教師間で児童生徒の実態や授業の計画を共有して実践し、児童生徒の評価を基に授業改善を重ねることができた。
- ②情報交換会や授業参観により各学部の取組を全校で共有し、先を見据えたり、これまでの積み重ねを授業づくりに生かすことができた。

イ 課題

- ①児童生徒が「分かる！」と感じる授業づくりが確立し、継続するための体制が必要である。
- ②小学部から高等部までの学びをつなげることができるように授業づくりをする。

R 7 小学部研究のまとめ

1 目的

○児童にも、教師にも、
WIN! WIN! な教育活動を展開していこう!

WIN! WIN! な教育活動とは?
⇒

児童
○自分が何をするのが「分かって」or「納得して」いる。
○今すべきことをしている。

教師
○その指導に手応えを感じたり、学習活動を通して喜びを感じたりする。
○自分の授業の質を高めていくことができる。

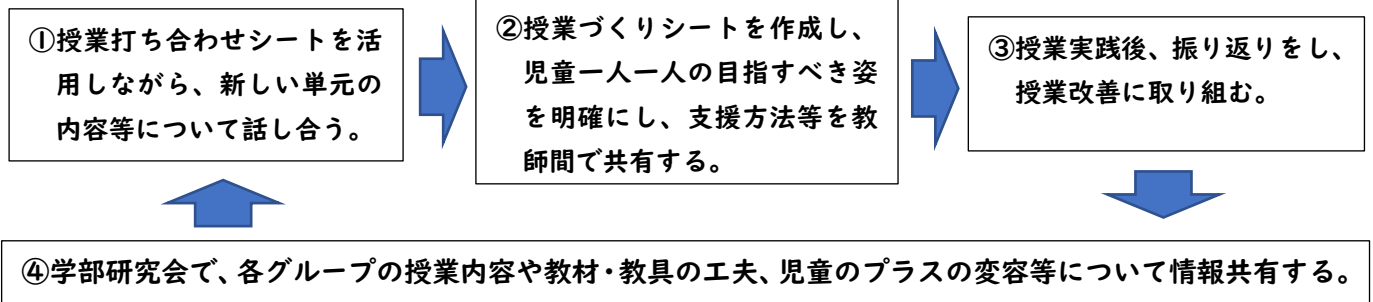
2 考え方

- ① 直接、指導の計画や実践に関わり合う職員は、児童の目線に立ち、「意味」や「理由」が分かって、指導の「目指す方向」や「方法」を分かり合って、実践する。
- ② 児童にかすかなプラスの変容が表れたら、教師も自身にプラスの評価を与える。
- ③ 教師自身が変わり続けていくことの必要性を認識する。
- ④ ①～③について、学部内で共有して取り組む。

トライ&エラーを恐れずやっぺいこう!

3 研究の内容

- (1) 1、2の目的や考え方に基づいて、授業づくりに取り組む。
- (2) 授業づくりの流れ



(3) 研究の振り返り（アンケートの実施）

- ・教師へ小学部の目的や考え方について、実践を振り返るアンケートをとる。
- ・アンケート結果を共有し、成果と課題をまとめる。

3 まとめ

〈成果〉

(1) 授業づくりについて

- ・授業打ち合わせシートや授業づくりシートを活用することで、目指す方向や方法を常に共通理解しながら授業づくりを進めることができた。
- ・情報共有することで、多面から児童の実態をとらえ、共有して授業改善ができた。

(2) 児童や教師の変容について

- ・児童が「できた」と感じたり、自分から取り組んだりする等の主体的な姿を教師が確認することができた。
- ・授業者間で話し合うことで、児童の変容について共通理解ができた。

(3) 体育と音楽の各グループに分かれた取組方法について

- ・普段の授業づくりを、各種シートを活用することで児童の目線に立って計画、実践することができた。
- ・話し合うことで、より効果的に指導の工夫やアイデアを出し合い、授業づくりができた。

〈課題〉

児童が「分かって」or「納得して」授業に参加できるように、個に応じた支援方法や教材・教具についてさらに検討する。

R7 中学部研究のまとめ

1 目的

- (1) 「児童生徒が分かる授業」を展開するため、どのような工夫や考え方が必要かを検討する。
- (2) 「児童生徒が分かる授業」についての考え方や工夫を授業計画や授業実践に役立てるように共有する。

2 研究の内容


- (1) 中学部スタンダードのグレードアップと活用 → 「わかった！」は、共有、共通理解から

①フォルダの整理
***資料の保存先**
nas01\share\7600_宮古恵風
支援学校\11_2025年度(R07年
度)\002 中学部\■新年度準備
R7 中学部スタンダード\様式・
印刷用資料

***画像の保存先**
nas\画像フォルダ\R07画
像\03 中学部\中学部スタン
ダード用画像

②学習ファイルの色

*ファイル(ファイルがいっぱいになったら、新しいものを準備)
国語(ピンク)、算数(水色)、作業学習(緑)、
生単(オレンジ)、特活(紫)、宿題(黄色)




*リング付きのファイル(表紙に応じてだが、インデック
スなどを付け、整理するよう指導)
実技教科(ピンク)、校内実習(黄緑)

No.	内容
1	制服はハンガーにかけること
2	運動着、作業着は、畳んでかごに入れ ること
3	着替えのマナーと手順について
4	ロッカーの使い方について
5	教室の引き出しの使い方について
6	連絡帳の様式について
7	学習ファイルの色について
8	教室に提示する時間割について
9	行事等のスケジュールについて
10	約束カードについて
11	場所カード
12	健康観察・気持ちカード
13	
14	
15	

③教室に掲示する時間割

*スケジュールを活用する力を育てる
*原則 時間、活動、場所が確認できるように
提示
*教科カード、活動カード(一部)共通で使用



- (2) 授業づくりのポイントの共有(授業検討会) → みんなが「わかった！」の授業づくりができるように

美術の授業づくりのキーワード	数学(Bグループ)の授業づくりのキーワード
<p>ア 目標が分かると主体的になる ①集中して ②工夫して ③考えて ④選んで ⑤自信をもって</p> <p>イ 分かる伝え方 ①見本提示 ②イラスト・写真で補う</p> <p>ウ やってみる(美術の見方考え方を働かせるために) ①適度な説明を ②協働的な活動で ③失敗もあり</p> <p>エ 個別の配慮で集中しやりのある活動になる ①場面の切替 ②流れの工夫 ③集中できる活動時間 ④楽しくなる活動 ⑤個別の配慮(実態に合った教材・ 教具、使いやすい道具、できる活動、やりやすい手順、 席の配置、提示の場所やタイミング)</p> <p>オ グループングでアクティブラーニングに ①生徒同士が対話・話し合い ②まねして ③手本に</p>	<p>ア 自分で考える、やって覚える授業 ①目標が分かっている、見通しがもてる ②繰り返してやるのが分かっている ③実態に応じた活動の仕方 ④T-Tの役割分担、必要最小限の関わり</p> <p>イ 生活につながる学習 ①楽しいと感じる活動 ②学習したことを生かす場→生単、作業、行事等 ③数学では考え方を学ぶ場 ※中学部で身に付けたい力の確認→年間指導計画 を学部で共通理解することが必要</p> <p>ウ 学びやすさ ①場の設定 ②教材・教具の工夫</p>

- (3) 生活につながる学習ができる年間指導計画に見直し → 「わかった！」は、年間指導計画からスタート

- ア 学習したことを生活につなげるために、単元が行事や他の教科等と関連するように見直す。
- イ 「年間指導計画の作成の参考資料」で授業が充実するように、年間指導計画作成のポイントを共有する。

3 まとめ

〈成果〉

- (1) 中学部スタンダードを基にして学校生活の約束やルール、手順などを統一した。
- (2) 授業検討会を実施し、授業改善や授業づくりのポイントを共有した。
- (3) 学習したことを生活に生かすことができる大切さを確認し、行事や他の教科等と関連するようにならぬ指導計画を作成することを共有した。

〈課題〉

- (1) 「わかった！」と感じる授業づくりができるように、単元計画や教材・教具について検討する。
- (2) 中学部で身に付けたい力を学習できる環境が整うように、中学部スタンダードの見直しや追加をする。


R 7 高等部研究のまとめ

I 目的

- (1) 「生徒が分かる授業」を展開するため、どのような工夫や考え方が必要かを検討する。
- (2) 共通して取り組む事項を定め、実践し、活動の様子を共有する。

2 研究の内容

- (1) 作業各班の取組や、他班への疑問、作業時の悩み等の共有
- (2) 服装のスタンダード（クリエイトスタンダード）、日誌の再検討
→班ごとの検討、全体での検討を繰り返し実施

服装のスタンダード	
<p>① 班ごとに曖昧だった着こなしルールについて統一</p>	<p>② 実習中の着こなしや、実社会に出た際の着こなしまでを視野に入れた着こなしルールの整理</p>
<p>→【えり】【ボタン】【Tシャツ】【帽子】について明記</p>  <p style="text-align: center; font-size: small;">作業着 着こなし クリエイトスタンダード</p> <p>【えり】すべて折る</p> <p>【帽子】移動など必要ない場合は手に持つ</p> <p>【Tシャツ類】ズボンにしまう</p> <p>【ベルト】忘れずに！</p> <p>【ボタン】前、そでのすべてをどめる</p>	<p>→作業着の下のジャージの着用、防寒対策の着こなしについて確認</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>△作業着に着替えるときの注意点△</p> <p>※夏：短パンは脱ぎましょう（熱中症対策にもなります！）</p> <p>※冬：制服のボロシャツは脱ぎましょう（動きやすい服装で防寒しましょう！）</p> <p>防寒のために運動着を着用する際は、えりやすそから見えないようにしましょう。</p> </div>
日誌の再検討	
<p>① 各班の作業日誌、取組、生徒の実態の共有 →日誌に記入する内容と、班ごとの進め方を共通理解</p> <p>② 統一事項の検討、決定 →目標の立て方や次時に向けた記入の仕方は、作業内容や作業班の実態によって大きく異なる。 →自己評価項目の統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【挨拶、返事】【報告・連絡・相談】【時間】【指示理解】【安全】【効率】の6項目に ・自己評価チェック表を作成、全ての作業班で使用 	

3 まとめ

〈成果〉

- (1) 所属していない作業班の取組や実態を共有しながら検討を進めることができた。
- (2) 曖昧だった服装ルールについて、卒業後の姿を想定しながらまとめることができた。
- (3) 作業内容や生徒の実態を基に、学部で統一できる部分と各班の特色を生かす部分とを明らかにすることができた。

〈課題〉

検討、整理し、研究を進めていく中で、生徒がどんなことができるようになったか、どんなことを自分でできるようになるとよいかをより明確にしながら進めていく。